

審査の結果の要旨

氏名 レッジャーニ マルコ

論文題目 Transient Tokyo: A Comparative Exploration of Railway-led Place
Identity Transformations in Shinjuku and Shibuya
(変遷する場所としての東京：新宿・渋谷における鉄道から生まれる場所のアイデンティティに関する研究)

本論文は、新宿と渋谷における事例に対する体系的な分析を通して、東京の場所のアイデンティティと鉄道主導の都市開発との関係を明らかにすることを目的としている。

本論文は、序章および結章を含め、9つの章から構成される。

序章では、鉄道は東京の都市拡大と社会文化に対し支配的な力を持っていると認識されてきたものの、場所のアイデンティティに対する影響に関する研究は不十分であるという研究課題を指摘し、場所のアイデンティティについて定義することで本論文の枠組みを設定している。

第1章では、一般的な場所の理論を幅広く調査することで、場所のアイデンティティとモビリティとの発展的な関係について明示している。また、特に駅に注目することで、建築・都市デザインという観点から場所のアイデンティティと鉄道との関係について考察している。

第2章では、東京における場所のアイデンティティや鉄道、モビリティの調査について歴史的な背景と学問的な位置付けを示し、都市の発展が鉄道主体のアーバンイズムを生み出す一方で、鉄道から生まれる場所のアイデンティティと駅での体験との関係は未解明であることを明らかにしている。

第3章では、この研究結果を一般化するのに重要な項目を明らかにするため、日本の首都としてのアイデンティティに関する議論を考察し、東京の都市的なアイデンティティを説明する際に、移動とモビリティの概念が導入される傾向があることを指摘している。

第4章では、研究手法について述べており、理論的枠組の解釈と文献から、2つの調査方法が示され、事例の選定に関する根拠やデータの取扱い、分析方法が示されている。

第 5 章では、新宿と渋谷について、交通結節点としての発展の分析を通して、輸送が都市の拡大を支え、戦後の民間鉄道事業者による開発が鉄道主導の特徴的な場所のアイデンティティに関係していることを明らかにしている。さらに、歴史的なアイデンティティと都市の変容との関係のなかで、共通点と特異点を記述している。

第 6 章では、「場所のユニット」、ネットワーク構成、境界条件、流れの記述、出口の境界面について調査し、2 箇所ハブにおいて経験される場所のアイデンティティについて分析している。新宿駅と渋谷駅、それぞれの場所に特有の結果を明らかにすることで、場所のアイデンティティを表す人々の行為や流れ、内外を移動する際のあいまいな認識について比較分析を行っている。

第 7 章では、新宿駅と渋谷駅における鉄道から生まれる場所のアイデンティティの変化について、「変化し続ける場所のアイデンティティ」「変化しつづけるという理論的枠組」「理論の一般化」「鉄道の研究への貢献」という 4 つの観点からまとめている。特に、「変化し続ける場所のアイデンティティ」という概念は新宿と渋谷の鉄道によって作られたアイデンティティ、ひいては東京のアイデンティティを理解するうえで最も重要な理論的枠組と結論づけている。

以上のように本論文は、非常に複雑な様相を見せる東京の中の鉄道に着目し、その様相を丁寧に読み解き緻密な分析を行うことで、都市のダイナミズムと場所性との関係を明らかにする実証的な研究は貴重であり、都市計画の分野にも大いに寄与するものと考えられる。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。